（第3種郵便物認可）

全国ロボ競技 小中生挑む

広島の5人チーム

広島市の小中学生5人が2月12日に東京都内で開かれる青少年のロボット競技大会「ファースト・レゴ・リーグ（FLL）」の全国大会に出場する。5人は同市内のプログラミング教室に通っており、昨年12月の予選を突破。全国大会で上位に食い込むため、最後の追い込みをかけている。（北瀬太一）

全国大会で上位進出を狙うRED広島のメンバー（広島市中区で）

ゲームや研究発表 総合力競う

FLLはNPO法人・青少年科学技術振興会（横浜市）が主催し、玩具メーカー・レゴジャパンなどが協賛している。全国大会は東京大の本郷キャンパスで開かれ、昨年12月に開かれた各地の予選を勝ち抜いた計40チームが出場。上位はアメリカなどで開催される世界大会への出場権を獲得する。

全国大会に挑戦するのは広島市立牛田中1年・増本虎太朗君、広島なぎさ中1年・荒木陽向君、同市立安小6年・宮河冴太朗君、同市立伴小5年・長山裕芯君、なぎさ公園小4年・山岡春陽さんの5人でチーム名は「RED広島」。家庭教師の派遣事業などを手がけるDIC学園（大分市）が展開する広島市内のプログラミング教室に通う仲間だ。

競技は「ロボットゲーム」と研究発表などの順位を総合して競う。

ロボットゲームは、ロボットにプログラムを組み込んで、2分30秒の制限時間内に「ブロック模型を移動させる」といった15種類の課題を攻略した合計点で競う。

研究発表は「アートの可能性を探究する」がテーマ。5人は、新聞記事で書道人口の減少を知り、書の魅力を世界に発信するため、書くロボット「書道先生」と筆洗いロボット「ウォッシュくん」を製作。発表では実際に動作させ、多くの人にロボットを通じて書道の魅力に触れてもらうと提案した。

昨年8月から、12月の福岡県での予選に向けて毎週日曜日に練習し、攻略法の検討などを続けた。予選では、出場12チームの中から、研究発表が審査員から高く評価され、全国大会への切符を手にした。現在はプログラミングの微調整やロボットの改良、発表内容の見直しなどを重ね、2月12日の本番に備えている。

ロボットリーダーの増本君は「全国で1位を目指したい」と話し、書道の研究発表をとりまとめる荒木君は「研究成果をしっかりとPRするため、堂々と話せるよう最後まで練習したい」と意気込んでいる。子どもたちに助言をしてきた同学園の近藤郁子さん(55)は「失敗も含めて様々な経験を積むことで何事にも粘り強く取り組める子になってほしい」と話している。